

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームむつみ 2F	評価実施年月日	平成19年10月1日		
評価実施構成員氏名	長谷川 文人 竹内 真弓	新山 大 高野 幸恵	柳澤 禮子 田中 恵津子	村井 辰典 新堀 英俊	永江 友子
記録者氏名	新山 大	記録年月日	平成19年10月15日		

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念を各スタッフにて共有し、明確にしている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を念頭に置き取り組み、各スタッフ同士連携を取り、理念に基づいた介護を心がけている。</p>	○	
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念をホールに提示している。</p>	○	ホールに掲げているが、その都度のご説明も行っていく。
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣施設との連携や、野菜販売所での交流を実施している。隣接施設やご近所の方に対しては明るく挨拶など、声をお掛けしている。</p>	○	日常のお付き合いの実施。
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>隣接施設との合同での夏祭りや、野菜販売所での交流、また地域の方々へのボランティア(演奏会等)により交流を実施している。</p>	○	地域の皆様とより深く交流していけるよう努めていく。
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>会議やスタッフ間での話し合いの中で地域の情報の意見交換を行っている。</p>	○	各スタッフ間にて話題を提供しあいながら取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価や外部評価をもとに、改善点などを各スタッフにて話し合い、更なるサービスの向上に向け取り組んでいる。	○	
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議にて頂いたご意見、ご指摘を元にサービス向上を目標に各スタッフ間にて話し合いを実施している。	○	運営推進会議の内容ををサービス向上へつなげていく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者、サービス課長を中心に、その都度の相談、報告などを行っている。	○	引き続き連絡、報告、相談を実施していく。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	各スタッフ間にて話し合うようにしている。	○	全体の場または自己学習を含め知識を深めていく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々常に身体的、精神的苦痛を与えないようスタッフ間にて情報交換を行い、防止に努めている。	○	全体の場または自己学習を含め虐待に関しての知識を深めていく。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書、重要事項説明書を基に説明を行っている。	○	ご本人やご家族の不安、疑問点などに対し十分なお説明を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情処理委員会を設立し、連絡先を提示している。また苦情についてはその都度改善を図ることができるようにしている。</p>	○	<p>ご本人やご家族が話しやすい関係を作っていく。また、その都度適切に対処できるようにする。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>機関紙を定期的に発行し、あわせてホームでの様子を文章にて送付している。また定期的、また状態に合わせてその都度電話やメールにて報告、相談を行っている。</p>	○	
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営協議会へのご家族の参加や、ご家族来訪時等に話しやすい雰囲気を作れるようにしている。玄関に苦情に関する資料を置いてある。また、苦情に対してはその都度対応の検討、改善を実施している。</p>	○	<p>引き続き話しやすい雰囲気、スタッフとご本人様、ご家族との因りよい関係を築いていく。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議の場やその都度話し合いがなされている。</p>	○	<p>今後も会議の場や、その他の時間において管理者、スタッフとの連携を深めていく。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>大まかな月の予定や状況(外出、通院、行事など)を把握し、それを基に勤務作成時に調整を行っている。また柔軟に対応できるようスタッフ間にて調整を随時行うこととしている。</p>	○	<p>予定を確実に把握すると共に、随時連絡・調整を実施していく。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>入居者様にその都度のご説明を行うようにしている。</p>	○	<p>異動、離職の場合には入居者様へその都度のご説明を行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修参加の機会を作ったり、内部資料として資格の取得に向け資料を作成し、配布している。	○	現状において全てのスタッフが研修に参加する事は困難であるが、全てのスタッフがその力量に応じた研修に参加できるよう、調整を行ってきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市のGH連絡会主催の研修会へ参加をし、他事業所との交流を行っている。	○	他事業所とのネットワークを構築して行き、サービス向上を図っていく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	その都度管理者やスタッフと話し合いを行い、相談に応じている。	○	変則勤務のため、全スタッフにての親睦などは難しく、今後の課題となっている。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	各スタッフの得意分野の中から力を発揮できる機会を増やし、自信を持つことができるよう配慮している。	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	最初の面接から十分に不安や悩みに対し傾聴の姿勢をとり、継続的に相談を受けている。	○	苦にならぬ範囲でご本人の思いを引き出せるよう努力している。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	最初の面接から十分に不安や悩みに対し傾聴の姿勢をとり、継続的に相談を受けている。	○	苦にならぬ範囲でご家族の思いを引き出せるよう努力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談における会話やコミュニケーションにて相手の気持ち、思いなどを察知し、しっかりと傾聴した上でその方にとって、最善のケアを行っていくことができるようにしている。	○	
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族及びご本人様に十分に当事業所の説明をさせて頂き、見学を含め納得いただけるよう対応をさせていただいている。	○	左記の件を含め体験入居などを検討していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人の立場に立った上で、人生の先輩として尊敬する意識を持ち、ともに時間を過ごしていく中で、ご本人との関係を築いている。	○	今後も継続して、入居者様を尊重しよりよい関係を保ちながら支えあう関係を築いていきたい
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪されやすい環境づくりに留意している。ご来訪時、また通信なども含めご家族のお話に傾聴し、また、こちらからも相談を行っていき、よりよい関係を築いていけるよう配慮している。	○	ご家族との会話を通し共感していく中で、ご本人様に対してのよりよい支援に向け取り組んでいく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	今までのご本人様ご家族の関係をお伺いした上で、情報の共有を行いながら良い関係を築き、保っていけるよう配慮していく。	○	定期的な訪問又は連絡を依頼し、今後も継続しよりよい関係を保っていけるよう支援を行っていく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	来訪をはじめ、行きつけであった美容室や商店、その他医療機関など、馴染みのある場所に出かけたりと関係が途切れないよう配慮している。	○	今後もご家族と相談を行いながら、馴染みの関係、場所を大事にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お一人お一人の個性を尊重しながら、入居者様同士が日常生活の場を通し関わっていただけるように仲介するなど配慮を行っていく。	○	生活の場を通し、入居者様同士が交流を深めていくことができるよう配慮を行っていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的に関係を保っていくことができるよう、近況の確認をさせていただいたりと関係が途切れないようにしていく。	○	今後も継続し連絡を取り合っていくなどしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人本位の生活を目標に、お一人お一人と十分に会話を行ったり、関係を築いていくことによって、その方の望みや生活に対する希望などの把握に努めている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接や、また入居後にご本人との会話を通し、どのような生活を送ってこられたのかを把握し、各スタッフ間にて共有するようにしている。	○	今後も継続し把握を行っていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録への記載を行い、各スタッフ間にて共有している。健康状態や特記事項についてはその都度スタッフ間にて確認し合い、その方の把握に努めている。	○	細かな内容まで総合的に把握し、スタッフ間にて共有できるようにしていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の希望をふまえ、現状での状態把握を行い、各スタッフにて情報を共有し介護計画の作成を実施している。	○	本人、ご家族、その他関係者の希望や意見を尊重し、その方にあつた支援を行っていくことができるよう介護計画の作成を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご本人や、ご家族、介護支援専門員との連絡、相談を行いながら現状に合わせた介護計画を作成できるようにしている	○	ご本人、ご家族に意向に沿った形での計画作成に努めていく。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	全スタッフが記録作成に関わる中で、日々記録を確認することにより、情報の共有をはかっている。	○	より細かな点まで記載、情報の共有を行い、実践や介護計画の見直しを実施していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	極力ご本人及びご家族の要望に応じることができるよう、個別ケアを重視し支援を行っている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	敬老会や日常でのボランティア団体の演芸会を開催している。また関係機関とはその都度連絡調整を実施している。	○	今後も関係を継続しながら協力を依頼していく。消防に消防・防災の関係等でのアドバイスや助言を頂きたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。			
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	管理者、サービス課長を中心に地域包括支援センターと連絡を取り合い、連携を図りながら協働している。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族への相談のもとかかりつけ医を選択し、定期的な受診、突発的な通院を含め、その都度ご本人の様子をお伝えし、適切な医療を受けることができるよう配慮を行っている。	○	医療機関との連携を密にし、急変時の対応を含め連携を依頼していく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医に現状をこまめに報告し相談や指示を頂いている。また協力医療機関として市内精神科病院との連携を密にしている。	○	
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	同法人内の看護師に依頼し、定期的に入居者様の健康状態について上申及びバイタルのチェック等を実施している。	○	
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中を含め、ご本人の様子を伺ったり、快復のめどなどを確認させて頂くことにより、病院と連携し、その方に対しての最善のケアを行うようにしている。	○	入居者様の生活の場として、最善の場所を提供できるよう配慮していく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	当ホームにての重度化した場合や終末期に対する方針を明確にし、ご本人、ご家族にお伝えしている。	○	今後も繰り返しご相談を行っていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	各スタッフ間にて当ホームにての方針を共有し、対応を行っている。	○	日頃よりスタッフ間にて重度化した場合及び終末期に対して話し合いを行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	十分に話し合いを行い、環境の変化による不安を軽減して頂くことができるよう支援を行っている。	○	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	人生の先輩として応対しており、お一人お一人の尊厳を大切にしている。またプライバシーに十分配慮し、自尊心を傷つけないよう関係を保っている。	○	
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定を原則とし、ご本人の思いや希望を引き出すことができるよう配慮を行っている。	○	ご本人の思いや希望を引き出すことができるようにしていく。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お一人お一人の能力を生かし、その方の役割として行っていただいたり、望んでいることや、やりたいことができるよう個別的にケアを行っている。	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご本人の希望をお伺いし、自由に整容を実施できるよう支援を行っている。ご本人行きつけの美容室への外出などを行っている。	○	
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	お一人お一人の好みを把握した上で、それをもとに調理を実施している。入居者様と食事をともにしたり、お手伝いをさせていただいている。	○	落ちついた状態で楽しく食事時間を過ごしていただけるよう配慮していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	健康管理には十分気をつけながら、ご本人の楽しみを可能な限り提供できるようにしている。	○	ご本人の健康状態を把握し、主治医に相談した上で提供していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	お一人お一人の排泄パターンを知ることでスムーズなトイレへの誘導を行っている。また、尿意、便意のサインを見逃さないようにし、トイレにて排泄を行うことにより、気持ちの良い排泄を心がけている。	○	排泄パターンを把握し、観察を行いながらトイレでの排泄を行っていきけるよう努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週3回の入浴日に皆様が入浴できるよう声をお掛けしている。後p本人の希望もあわせ、未入浴が続かないよう、時間や日程を調整するなど、柔軟な対応を心がけている。	○	入浴も生活の一部として楽しみの時間であるため、極力お一人お一人の希望に添えるよう支援を行っている。入浴を好まない方に対しても工夫を行い楽しんでいただけるよう努めていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	お一人お一人の生活習慣も考慮しながら健康状態に合わせて、安心した環境を提供し、休息及び安眠の支援を行っている。	○	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご本人の希望や行いたいことを第一とし、これまでの生活歴などにも考慮し、お一人お一人の楽しみごととして役割を担っていただいたりし、生活に張り合いを持っていただけるよう配慮している。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いをご自分で管理されている方については、外出時などに買い物を楽しませている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の要望に沿えるよう希望を確認し、その希望に沿った形での外出を心がけているが、状況により待っていただいたり、日時の変更をして頂くこともある。	○	できる限りご本人の希望に沿った形で外出することができるようにしていく。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の協力を得ながら外出の機会を作っている。また行事などにより外出の機会を多くするようにしている。	○	できる限りご本人の希望に沿った形で外出することができるようにしていく。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望時にお使いいただけるようにしている。	○	プライバシーに十分注意し、電話や手紙のやり取りを行っていただく。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問していただけるよう、雰囲気作りを行っている。また来訪時にはゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。	○	今後も気軽に立ち寄っていただけるよう訪問しやすい雰囲気を作っていく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて会議の場などで各スタッフの理解を高めることができるようにしている。	○	
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者様の状況や安全確保に十分に配慮した上で、鍵を掛けないケアを実施している。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>定期的及び、適宜の見回りを各入居者様の了解を頂いたうえで実施している。</p>	<p>○</p>	
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>状況に応じてご本人やご家族に相談をし、危険防止に取り組んでいる。</p>	<p>○</p>	<p>今後もご本人、ご家族に相談をし、その方の状況に応じ危険防止に向け取り組んでいく。</p>
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>年に1～2回救急救命についての講習を消防署より受けている。また、各入居者様のご様子や状況等を各スタッフにて共有し事故防止に向け取り組んでいる。</p>	<p>○</p>	<p>事故についての意識を各スタッフ間にて共有し、その都度対応できるようにしていく。</p>
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>年に1～2回救急救命についての講習を消防署より受けている。</p>	<p>○</p>	<p>機会があれば繰り返し講習を受け、どのような状況にも対応できるようスキルアップを目指していく。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練を実施している。また非常連絡網を作り、隣接の施設や町内会への協力依頼を行っている。</p>	<p>○</p>	<p>今後も繰り返し避難訓練を行うことにより、災害時に冷静に対応できるようにしていく。</p>
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>ご家族との会話を多く持つようにし、その都度状況や対応の方法などをお伝えし、また希望などの確認を行っている。</p>	<p>○</p>	<p>ご家族との会話の中で、ご本人にとっての最善の対応を行えるようにしていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化や異変があった際にはその都度の対応を含め、記録や口頭にての情報の共有を行っている。	○	
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様の内服薬のリストを閲覧しやすいようにしており、各スタッフ間にて内服薬の情報把握のため内容を共有している。	○	各スタッフのスキルアップ及び職員間の情報共有の徹底を実施していく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	入居者様の排便状況の確認を行うとともに、水分の摂取を促したり、日々の散歩等により適度な運動を提供している。また医師との連携を行っている。	○	今度も医師との連携をとりながら便秘の予防や対応を行っていく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ご自分にて行っていただける方に関してはその都度の声がけを、また介助が必要な方に対しては介助を実施し、その都度口腔内の清潔を保持できるようにしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食時や水分補給時に適度な量を摂取できているかどうか確認を行っている。また、主治医との相談し摂取量などの調整を行っている。	○	
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、各スタッフ間にて共有し、予防に取り組んでいる。また、研修会などに参加し、各スタッフへ周知徹底を行っている。	○	マニュアルに沿って、予防を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	新鮮な食材の使用を心がけ、また毎日の清掃を行い、清潔な状態を保てるよう配慮している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	入り口に看板をつけたり、花を飾ったりし、立ち寄りやすい雰囲気を作れるよう配慮している。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節に合わせた飾り付けや、その状況に合わせた音や光などの配慮を行い、居心地良く過ごしていただけるよう配慮している。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ホールソファなどにご自由につろいでいただいている。また畳み敷きの小上がりをご用意している。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ご希望に応じ家具や使い慣れたものを持ち込み頂いている。		その都度入居者様のご要望をお伺いしていく。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	適宜調整を行うなど配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
○身体機能を活かした安全な環境づくり 85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーや、廊下・トイレに手すりを設置している。		
○わかる力を活かした環境づくり 86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各お部屋に表札を準備したり、トイレなど共用部分についてもさりげなく分かりやすいよう配慮を行っている。		華美にならないような環境を目指していく。
○建物の外回りや空間の活用 87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋外にて畑や花壇を作ったり、隣接施設が行っているビニールハウスやしいたけ作りなどに参加させてもらっている。	○	今後も同様に提供していきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98 職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

お一人お一人に対し、人生の先輩として尊敬の念を抱き、入居者様と良い関係を保つことで、おだやかにゆったりと毎日の生活を過ごされています。それぞれの生活のペースを崩さぬよう、居心地の良い環境を目標としている。畑やビニールハウスなど、また小さな川もあり、自然に囲まれた静かな環境にて生活を送っていただいています。隣接した一戸建ての住宅があり、ご希望があれば宿泊場所として、ご家族と一緒に過ごされることが可能である。